

2025年度 東京都立大学大学院

経営学研究科 入学試験

(2月入試)

※公開している入試問題・解答・出題意図等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

博士前期課程 経営学プログラム

試験科目名	経営戦略論
解答・出題意図等	1 戦略的意思決定の一つである垂直統合の意思決定における基本的な論理を問うている。 2 戦略に関する重要な概念を説明し、それが適用される具体的な状況を示す能力を問うている。 3 文章中にある主張を多角的に検討する能力を問うている。

試験科目名	経営組織論
解答・出題意図等	・組織形態に関する基本的な理解を問う問題である。特定の組織形態を採用した場合のメリットだけではなく、デメリットも理解しているかによって、組織デザインのトレードオフを理解する素地があるかを検査する。 1 個々のサブユニットが果たす「機能」に応じて組織が分割されている組織形態。専門化や規模の経済な

	どが働きやすいものの、部門間調整が困難になりトップの意思決定負荷が高まる。 2 製品・サービスや地域ごとに組織を自己充足的単位で分割していく組織形態。環境変化への適応力などに優れるものの、製品ライン間の調整が困難になるなどする。 3 機能別組織と事業部制組織を組み合わせた二重の権限構造を持つ組織形態。理想的には専門性を深めつつ環境適応にも優れるものの、命令一元化の原則が崩れるため組織に混乱を引き起こしやすい。
--	---

試験科目名	マーケティング
解答・出題意図等	1 小売業(自社)ランクだけで棚割計画を検討すると自社の売り方(戦略)が適切であるのか不適切なのかということが判断できない。そのため小売業(自社)ランクだけでは正確に売れ筋商品と死筋商品とを識別することができない。よって、市場(競合)ランクを比較対象とした上で売れ筋商品と死筋商品であるのかを検討して棚割計画を実施する必要がある。 2 表1の①は小売業(自社)ランクと市場(競合)ランクがともにAランクとなっており、自社や市場においてよく売れている売れ筋の商品といえる。回転率の高い売れ筋商品であるため棚割計画としては引き続き「スペース確保」すべき商品といえる。 表1の②は小売業(自社)ランクがBランクやCランクとなっているが、市場(競合)ランクはAランクとなっている。市場においてはよく売れている売れ筋の商品であるが自社では売れ筋となっていない。よって、自社での棚割計画が適切でなく売上が伸びていない可能性が示唆されているため「売り方検討」すべき商品

	といえる。 表 1 の③は小売業(自社)ランクが取り扱いなし，市場(競合)ランクは A ランクとなっている。市場においてはよく売れている売れ筋の商品であるのにも関わらず自社は取り扱っていない商品であることから，棚割計画としては「導入候補」とすべき商品といえる。 表 1 の④は小売業(自社)ランクと市場(競合)ランクがともに C ランクとなっており，自社や市場においてともに売れていない死筋の商品といえる。回転率の高い売れ筋商品であるため棚割り計画としてはスペースを確保すべき商品といえる。 3 表 1 の⑤は小売業(自社)ランクが A ランクと市場(競合)ランクが C ランク(データなし)の組み合わせとなっており，自社ではよく売れている野菜飲料の商品であるが，市場においては売れていないか，売り上げのデータが存在しない野菜飲料の商品である。このような組み合わせとなる商品は自社が独自に扱っているか他社に先駆けて取り扱っている商品と考えられる。そのような商品となる可能性が高い商品としては「プライベートブランドもしくは地元商品」が考えられる。
--	--

試験科目名	会計学
解答・出題意図等	1 財務会計分野における重要論点のひとつである「税効果会計」の基礎概念を説明する能力とそれを所定の分量に収めて文章で示す能力を問うている。 2 税効果会計を適用するにあたり，その方法上の区分である「繰延法」と「資産負債法」の相違を，税効果会計の目的に照らして，具体的に説明する能力とそれを所定の分量に収めて文章で示す能力を問うている。

	3 子会社株式等の取得に伴い認識したのれんについて、企業会計基準上はそれに係る繰延税金負債を認識しないことになっているが、その理由を具体的に説明する能力とそれを所定の分量に収めて文章で示す能力を問うている。 4 連結会社相互間の取引によって生じた未実現利益の消去に係る一時差異について、日本の企業会計基準上の処理と、国際財務報告基準（IFRS）上での処理が異なっているが、その理由を具体的に説明する能力とそれを所定の分量に収めて文章で示す能力を問うている。 5 特定の事例に税効果会計を適用した場合に、必要な概念を運用し、かつ適正な計算を実施できるかを問うている。
--	---

試験科目名	データサイエンス
解答・出題意図等	1 与えられたデータに対して、基礎的な統計リテラシーに基づく結果の読み取り、仮説形成とその検証、新たなデータの結合による多角的な分析というデータサイエンスのプロセスを遂行するための基本的な構え・知識と論理的思考力を有するかを問う。各小問の出題意図はそれぞれ以下の通りである。 (1) アンケートの回答データに基づく 2 群の比較を題材に、データの数値要約と分布について適切なリテラシーを有するかを問う。 (2) 適当なデータの集計や可視化を行うことにより、与えられたデータのみから適切な推論ができるかを問う。 (3) 新たなデータを追加することで検証できる妥当な仮説を立て、その検証を行うための具体的な方向性を定めることができるかを問う。

	2 データに基づいてなんらかの予測を行いたいという状況を題材とし，問題を数理的にモデル化するための適切なデータ構造と予測方法を考えることを通して，データサイエンスの文脈における問題発見力と論理的思考力を問う。
--	---

試験科目名	数学
解答・出題意図等	1 (1) 240 (2) -240 2 $-1 + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{3}x^3 + \dots$ 3 (1) $\frac{4}{39}$ (2) $\frac{1}{9e}$ (3) $\frac{1}{3}$ (4) 1 (5) $\frac{4}{9}\left(2 - \frac{1}{e}\right)^2$

博士前期課程 経済学プログラム

試験科目名	経済史
解答・出題意図等	問題 1 1, 2 とも，経営学専攻博士前期課程のアドミッション・ポリシー「入学者に求める能力」の「経済学（マクロ経済学，ミクロ経済学，計量経済学），数学・統計，経済史のうち，少なくともひとつの分野に関する専門的知識もしくは素養及び経済学全般にわたる広い知識」に基づき，経済史の専門的知識もしくは素養及び経済学全般にわたる広い知識を問うている。 1 政治経済学・経済史等で大きな業績を残しているダロン・アセモグルらによる重要論文をもとにした図

	の読み取り問題から，経済史と経済学に関する素養と論理的思考力(批判的思考力も含む)を問うている。 2 福祉国家の興隆と定着と変化を 125 年スパンで概観させることで，経済史と，経済学史あるいは財政学などの知識を問うている。 問題 2 1 明治期に起こった戦争（主として戊辰戦争，西南戦争，日清戦争，日露戦争）を想起したうえで，戦時・戦後の財政金融政策に関して具体的に説明する能力を求めている。 2 問題文の意図と表の内容を正確に読み取り，それらをもとに歴史的な知識と紐づけて論理的に記述する，分析力，論理的思考力，文章表現力を考查する。
--	--

試験科目名	数学
解答・出題意図等	1 (1) 240 (2) -240 2 $-1 + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{3}x^3 + \dots$ 3 (1) $\frac{4}{39}$ (2) $\frac{1}{9e}$ (3) $\frac{1}{3}$ (4) 1 (5) $\frac{4}{9}\left(2 - \frac{1}{e}\right)^2$